

となつたのである。

外國の政黨と結託して國を賣るか如き政黨は斷じて許す事は出來ない、ロンドン條約に軍令部長の主張を退け六割七歩五厘に比率を繰下げたのは何故だ、特權階級、政黨に六百萬圓がばらまかれた爲である。滿洲事變の際學良の金庫内から出たるものは政黨員の借金證書であつた、滿洲の平野で君の爲、國家の爲に家庭も親子供も忘れ喜んで死んだ同胞の貴い血で得た生命線を金で切賣りをなす奴は斷じて許す事は出來ぬ、五・一五事件に依つて資本家、政黨は驚愕した然し吾々に取つては黒雲から太陽が閃いたその輝かしいところの喜びの日であつた、特權階級、財閥、既成政黨を除かねば國家を救ふことは出來なかつた云々の判決文は彼等に對する斬釘狀であつ

た、この民力、思想の衰へた祖國を殘して外敵の最前線に立ち得るか、非常時日本の爲愛國の熱情を以て共に邁進せんことを願ふ。

愛國義勇軍

安藤秀夫

如何なる國、如何なる時代に在りても革新が斷行されたのは悪業かへ善業へたる時、惡に對する善の力が奮ひ立つた時である。

大化の改新、建武の中興、明治維新も亦昭和の維新も然りである、五・一五事件の純心なる青年將校諸君は士官學校で常に教へられた事は正義の爲生命を捨てよと云ふことであつた、遂にヨリ雲を拂ふに至つたのは、やむにやまれぬ皇道精神から出たものである、財閥と其の手に矛とらた政黨、ロンドン條約に國威を汚かした者を討つ